

保健体育科学習指導案

活動場所 吉田南中学校体育館

生徒数 1年1・2組 男子20人 計34人
女子14人

指導者 教諭 松下賢司

1 単元名 「バスケットボール」

2 単元について

(1) 一般的特性

ア バスケットボールは、相手の動きに応じて集団で協力しながら得点を競い合うゴール型のゲームであるため、パス、ドリブル、各種シュートなどの基本的な個人技能・集団技能を中心に攻防を楽しむことが重要である。さらに、相手に勝つためにパスやドリブル、シュートなどを使い、作戦を立てて相手と競い合う過程や結果に楽しさや喜びを味わうことが大切である。

イ バスケットボールでは敵、味方が入り乱れながら練習やゲームを展開していくので、ときには身体接触を伴いながら活動しなくてはならない。そのため、安全を確保して活動するためには、ルールを理解してそれを確実に守っていく態度を育成していかなければならない。

ウ ゲームにおいては多様なボールの操作技能や絶え間なく変化する場面に応じて攻守を組み立てる力、そして、ゲームの流れのなかでの適切な判断力は欠かせない。それらの技能の向上を目指して、お互いに教え合ったり、チーム内における自己の役割を自覚して責任を果たしたりする過程で生徒相互の信頼関係をはぐくむことができるのもバスケットボールの魅力の一つでもある。

(2) 生徒から見た特性

ア シュートが成功したときに楽しさを感じることができる運動である。

イ チームで協力してパスをつないだり、得点を決めたりしたときに楽しさを感じることができる運動である。

ウ いろいろなドリブルの方法や強弱のある攻撃など技に挑むことに楽しさを感じることができる運動である。

エ 基礎段階では、「失敗したら恥ずかしい」「どうすればいいんだろう」といったような恐怖感をもったり、パスがまわってこなかったりするとき「おもしろくない」「つまらない」と感じたりすることがある。

3 生徒の実態

(1) 関心・意欲・態度

多くの生徒は、体を動かすことを好んでおり、バスケットボールに関してもゲームをしてみたい、シュートやパスなどの技能を習得して相手に挑戦してみたいなどの興味をもち、楽しみにしている。一方、「ボールを自分の意図するように扱うことができず、友達とパスをつなぐことができない」などの理由でバスケットボールが苦手と考える生徒もいる。

(2) 思考・判断

生徒は遊びの中でバスケットボールを経験した程度で、持続的な学習経験がない。そのため、バスケットボールの特性に応じて、自己やグループの能力に適した課題の解決を目指して、練習の仕方を考え、工夫することができないことが予想される。

(3) 技能

ほとんどの生徒が「ドリブルしながら走れない」「パスを狙ったところに出せない」「シュートが届かない」といったようにボールを自分の意図するように扱うことができないのでゲームを楽しむことが難しい。

(4) 知識

生徒はバスケットボールの学習経験がほとんどないため、ゲームの始め方・再開の仕方・終わり方などゲームの進め方に関する知識やファールの内容などバスケットボールの基本的なルールを理解していない。

4 単元の観点別学習目標

(1) バスケットボールに関心を持ち、学習のきまりを守りながら技能の向上を目指す過程で楽しさや喜びが味わえるように進んで取り組むことができる。

【関心・意欲・態度】

(2) VTR等の視覚教材を活用し、自己の能力・動きを分析し、問題点を見つけることで課題を明確にし、課題解決に向けて練習を工夫することができる。

【思考・判断】

(3) 基礎的・基本的な個人技能を身につけるとともに、それらを生かして集団的技能を習得し、ゲームや練習の中で持てる力を発揮することができる。

【技能】

(4) ルールや技能についての基礎的知識を理解することができる。

【知識】

5 単元の評価規準

	学習活動における 具体的な評価規準	想定される生徒の学習状況と手だて
		A 「十分満足できる」と想定した生徒の状況 C 「努力を要する」と判断した生徒への手だて
運動への関心・意欲	① バスケットボールに関心をもち、楽しさや喜びが味わえるように進んで取り組むことができる。	A バスケットボールに関心をもち、常に練習に自ら進んで取り組むことができる。 C 練習にゲーム性を持たせたり、相互の助け合い、励まし合いを促す。
	② お互いに協力して練習をすることができる。	A 練習に対し、あきらめない態度で臨み、アドバイスを送りながら、お互いに高め合うことができる。 C ペア同士での観察・相互評価をさせ、意欲や態度を喚起する。
	③ 学習のきまりを守り、健	A 学習のきまりを守り、健康や安全に常に配慮して、練習に取り組む

・態度	<p>康や安全に留意して練習ができる。</p>	<p>ことができる。</p> <p>C 単元の始めのオリエンテーション時、及び随時、健康特に安全面についての指導を行い、安全に活動するための方法を理解させる。</p>
運動についての思考・判断	<p>① 自己の能力・姿を分析し、課題を明確にすることができる。</p> <p>② 自己の課題解決を目指して、練習の仕方を工夫することができる。</p>	<p>A 自己の能力を客観的に見て分析ができ、その結果を課題解決に生かすことができる。</p> <p>C 学習資料やペア同士での教え合い等を通じて、自分の現状と課題を把握させ、展望をもたせる。</p> <p>A 自己の課題解決のために、段階的な練習や、練習の仕方を工夫した意見を出し合うことができる。</p> <p>C いくつかの主な課題を提示し、その中から選ばせ練習をさせる。その中で、自主的な工夫を考えさせる。</p>
運動の技能	<p>① 基礎的・基本的技能が身に付いている。</p> <p>② 基礎的・基本的技能を用いて、ゲームを行うことができる。</p>	<p>A 基礎的・基本的な技能のポイントを押さえ、正しい動きのイメージに合わせて運動を実践することができる。</p> <p>C 基礎的・基本的技能を適切に組み合わせ、段階的な練習をさせる。</p> <p>A パスやドリブル等を利用してゲームを展開できる。</p> <p>C 教師の支援、生徒相互の観察、学習資料の利用、ゲーム性をもたせた反復練習等を行わせる。</p>
知識・理解	<p>① バスケットボールの基本的な技能のポイント・ルールが分かり、ゲームを運営することができる。</p>	<p>A 知識として知り得たルールを練習の中で生かすことができる。</p> <p>C 随時、学習資料等を用いて、知識の定着に努めさせる。</p>

6 授業設計の視点

集団対集団で攻防を展開し、勝敗を競い合うバスケットボールは、攻防の作戦を立て、試合で生かすことができる喜びや試合の過程や練習によって得られる達成感を味わわせるなど、ゲームの楽しさを実感させることが大切である。特に作戦などを工夫してチーム一丸となってゲームに臨んだ際には勝敗や作戦の成功・失敗に関わらず、充足感が得られると考えられる。また、練習やゲームを通して、生徒同士で課題を指摘し合ったり、課題解決や技能の向上に向けて互いに教え合ったりすることにより、生徒相互の信頼関係をはぐくんで欲しいということから本単元を設定した。

そこで本単元では、バスケットボールの特性に多く触れるため、全員がバスケットボールに触れる機会を多くし、ボールに慣れることからボールをつなぐこと、そして得点を決めることへと発展させ、チーム対チームでの攻防を楽しませながら学習を展開させていきたい。そして、さまざまな場面でゲーム性をもたせることで生徒が意欲的な学習を行い、その過程で基礎となる技能を身に付けていける授業を構成したい。

具体的な学習展開にあたっては、次の項目に配慮しながら授業づくりを行った。

(1) 単元の学習指導過程

ア 「オリエンテーション」では、単元のねらいや、学習の進め方を理解させ、単元の見通しをもたせることができるようにする。また、安全の確保や授業をスムーズに進めていくために、学習の約束事を徹底する。さらに、ルールを簡潔化したゲームを行うことで、生徒の意欲・関心を高める。そして、単元全体における最終目標を示すことにより、生徒の意欲を持続させるようにする。

イ 単元の前半の時間は基礎的な要素を多く含ませるようにした「基礎段階」とする。「基礎段階」では、バスケットボールに慣れるための手だてを講じる。また、基礎・

基本となる技能のポイントをおさえて練習をおこなう。そして、簡易ルールを決めて、習得した技能を用いたゲームを行い、意欲を喚起する。

ウ 単元の後半はゲーム方式を中心とした「発展段階」とする。「発展段階」では、これまで学習した技能を向上させていくために友達に技能をチェックしてもらったり、視覚教材を利用したりして課題を明確にする。それをもとにチームの技能・個人の技能を高めることに向けた課題解決練習に取り組むようにする。また、課題解決によって培ったものを総括してゲームを行わせ、友達の練習過程の努力を認めたり、互いに励まし合ったりしながら成就感を味わわせる。

エ ルールを守って、勝敗に対して公正な態度がとれるようにするとともに用具やコートを整備し、安全を確かめたり、自他の身体の調子に注意したり、健康や安全に留意して学習が進められるようにする。

(2) 自他の動きを把握させる手だての工夫

ア 学習資料や実技の教科書、掛け図を準備して、正しい動きのポイントを理解させる。

イ 相互の学び合いや自己分析能力の育成を図るため、VTR・鏡等を活用しフィードバックしやすくする。

ウ VTRを活用することにより自他の教え合いの時間を充実させ自他の高まりを実感しやすくする。

エ 生徒が自己の動きと目標とする動きを常に比較できるように、模範となるVTRを常時映し出すようにする。

(3) 生徒の課題に応じた学習形態や学習材の工夫

ア 「発展段階」では生徒が自己の目的を達成するための練習に集中しやすくするために習得したい技能別に場を分けて練習を行うようにする。さらに、技能別に練習する中でそれぞれの能力にあわせて学習材を活用したり、目標を設定したりする。

イ 意欲の低い生徒への改善策として、「ラッキーポイントマン」を設定した。レディネステストの際に触球数やシュート数などのデータを生徒に記録させ、一番値が少なかったものをラッキーポイントマンとした。ラッキーポイントマンには得点の与え方を工夫する。

(4) 問題意識を高める評価の工夫

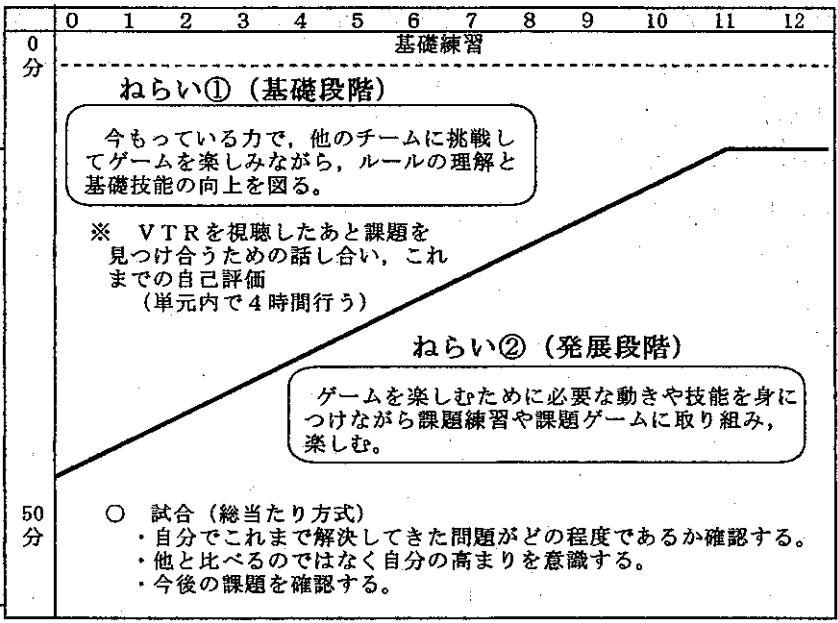
ア VTR等を活用し、一単位時間内で自己の姿を把握する時間の確保と単元内で定期的に自己の変容を確認する時間の確保を検討する。

イ 学習カードは、生徒自ら設定した目標をどの程度達成できたかわかるように、技能の段階を系統立てたものにする。また、生徒が自己の変容を的確に捉えられるように評価をグラフ化して表せるようにする。

7 単元の学習及び評価計画

時間	段階	学習目標・学習活動	評価項目	評価方法
1	オリエ	オリエンテーション	ア-①	観察法
	エ	○ 学習の見通しや約束事等を理解する。	ア-③	個人カード

2	ン テ ー シ ョ ン	<ul style="list-style-type: none"> ○ チーム編成や役割分担について知る。 ○ 参考となるVTRをみる。(見る視点を示す) ○ 実態調査を行い、チーム編成をする。 レディネステスト ア ゲームを行い、ボールの感覚・自己の技能の程度をつかむ。 ・触球数、シュート数、パス通過数などをチェックする。 ・チームでラッキーポイントマンを決定する。(触球数が一番少ない生徒) (VTRを使用する) イ 共通課題を設定する。		
3		・シュートする楽しさを味わうゲームを行えるようになる。 ・ボールをつなげる楽しさを味わうゲームを行えるようになる。 ・課題を見据えた練習を行えるようになる。		
4			ア-①	観察法
5			ア-②	個人カード
6			イ-①	練習課題表
7			イ-②	
8			イ-③	
9			ウ-②	
10			エ-①	
11				観察法 個人カード
12	ま と め	<ul style="list-style-type: none"> ○ 単元全体を振り返り、個人やチームの伸びを確かめる。 ○ 2学年への課題を把握して、今後の学習を考える。 		



8 本時の実際 (10/12)

(1) 題材名

「バスケットボール」

(2) 学習目標

ア 視聴覚教材を利用して個人やチームの課題を明確に把握し、お互いに協力して、意欲的に練習やゲームに取り組むことができる。

イ ゲームの中で練習した内容を生かし、効果的にパス、シュートなどの技能を発揮することができる。

(3) 授業の展開 (10/12)

過程	時間	学習内容	指導の留意点と評価 (◆は評価項目)
導	1	あいさつ・健康観察を行う。	○ 見学者への指示をする。
	2	準備運動・ストレッチを行う。	○ 保体部長を中心にストレッチ運動を行わせる。準備運動の足りないところを補充する。

3 バディを組んで繰り返し練習を行う。

- ・ ボールコントロール
- ・ パス、シュート
- ・ オールコートドリブル

4 本時の学習目標を確認する。

ゲームを楽しむための必要な技能を身につけながら、ゲームや練習に取り組もう。

5 5 ゲーム I をする。

※ バディ同士でスキルチェック簿に記録し、お互いに確認・アドバイスをを行う。

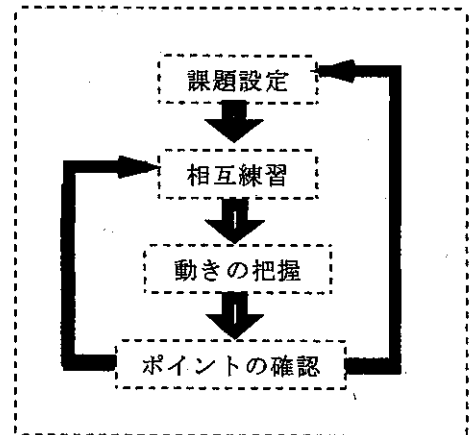
- ・ VTR を用いて自己の動きを把握する。
- ・ 前時に習得した技能の確認をする。

6 前時に設定したチーム課題の確認と個人の課題を決定する。

※グループノートに記入する。(資料を参考にする)

7

7 課題解決練習をする。



- 基本的な動きは、短時間で多くの種類を行う。
- 本時の繰り返し練習をワークシートに記録させ、技能の変容を把握させる。

- できない子へのアドバイスを積極的に行う。
- スモールステップ学習を行う。生徒が変容を実感できるように工夫する。
- 本時の目標の確認と意欲付けをする

- 課題意識を持たせて行わせるための声かけを積極的に行う。

- 補助簿に生徒の変容を記録しておく。
- 視覚教材を利用して課題を明確にする。
- 具体的に技能の師範をする。
- ◆ 視覚教材を利用するなどして生徒が課題を明らかにする姿勢でゲームや練習に臨んでいるか。

(思考・判断)

- チームの力を高めるために、グループ全員で意欲的な話し合い活動ができるように支援する。

- ゲームを見て補わなければならないところを指示し解決するための模範を行う。

- ワークシートに記録している内容を確認する。
- 同じ課題を選んだ仲間と協力して練習を行っているか観察し、指導を行う。

- ◆ お互いに協力し、公正な態度で練習をしているか。

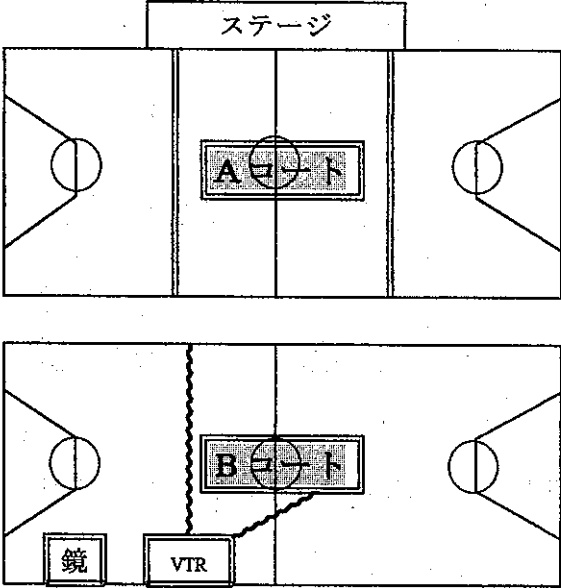
(関心・意欲・態度)

- VTRを見ながら自分の動きを把握して行わせる。
- 学習資料を参考にしたり、練習方法を提供したりして技能のポイントを分かりやすくする。

- 視聴覚教材は使いたいときに使うようにする。また、扱い方については事前に十分把握させておく。

- 場を工夫することで課題が解決しやすくなるようにする。

- 分からない場合は積極的に教師にアドバイスを聞きにこれる雰囲気づくりを心がける。

	<p>(個人的技能) Bコート</p> <p>A パスとキャッチ B ドリブル C シュート D フットワーク E リバウンド F ボールキープ G ビボット</p> <p>(集団的技能) Aコート</p> <p>H パスとパスカット I マンツーマン防御 J カットインプレー K 速攻と遅攻 L 2対2ボールキープ M パスワーク</p> <p>15</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ VTRや鏡を利用して行う。 ・ 各自の練習場所でパディを組み直しお互いにポイントを指摘し合いながら行う。 <p>8 ゲームIIをする。</p> <p>10</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 正規に近いルールで行う。 ・ 練習した成果をだせるよう全力で行う。 ・ 審判法を理解しながら行う。 <p>9 ゲームを分析と反省・次時の課題を確認する。</p> <p>5 (ワークシートに記入する)</p>	 <p>○ 課題にあった作戦を提供する。</p> <p>○ 自分の練習した課題の達成状況を確認しながらゲームを進める。</p> <p>◆ 練習した内容がゲームの中で生かしているか。</p> <p>(運動の技能)</p> <p>○ お互いに相手チームと合同で意見をだしあわせる。</p> <p>○ 記録簿に生徒の変容を記録しておく。</p> <p>○ 本日良かったプレー・悪かったプレーを紹介して問題点を明確にする。</p> <p>○ パディ同士で記録させるとともに、自己評価も行わせる。</p> <p>○ 本時を振り返らせ、次時の課題意識をもたせる。</p> <p>○ グループごとに整理運動をさせる。</p>
<p>終末</p>	<p>3 11 整理運動・後始末</p>	

9 評価

- ア 視覚教具を利用して個人やチームの課題を明確に把握し、互いに協力して、意欲的に練習やゲームに取り組むことができたか。
- イ 練習した内容を生かし、ゲームの中で効果的にパス、シュート等の技能を発揮することができたか。